

ピックアップ特集：赤平花卉園芸振興公社のこれまでの動き

3月定例会の主な議題

3月6日から21日まで、平成20年赤平市議会第一回定例会が開催された。

昨年、新たに制定された地方財政健全化法に基づき、赤平市において、平成20年度の決算で、連結実質赤字比率が40%を超えてしまうと、再生団体に陥り、本来の自治運営の在り方が崩される危険性があり、新たな財政健全化計画(改訂版)として、見直された。その様な背景から、この度の定例会では、各会派から、厳しい指摘、意見が出されました。(※多くの質問の中から、主な意見を各会派で抜粋しました。)

◆知新会

(北市熱・太田常美・林喜代子)

質問①病院の存続について
市長答弁：病院存続の最重要課題として医師・看護師の確保に医歯大や関係協議会・地域振興団体等へ派遣要請等を図っていく。又、病院の理念にもとずき全職員が一致団結して健全な病院経営に努める。

◆民主クラブ

(若山 武信・谷田部芳征)

質問①公社の具体的な閉鎖時期は何時頃か。また、民間譲渡を模索中だが、今後どうなるのか。
市長答弁：民間参入については、現

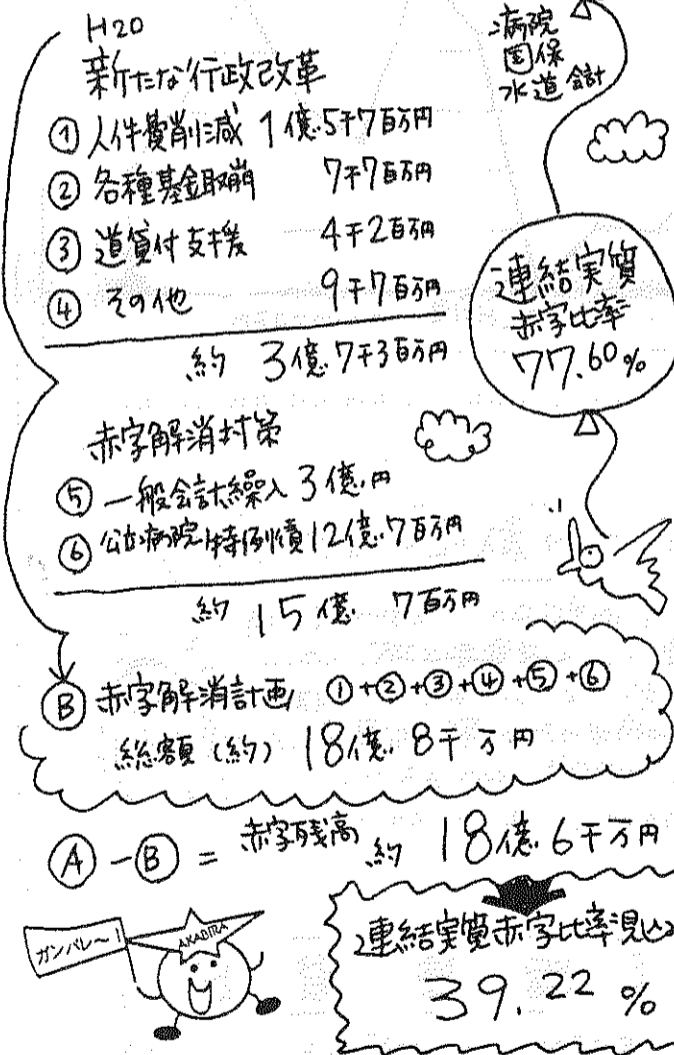
◆新政クラブ

(獅畑輝明・植村真美・鎌田恒彰)

質問①中心市街地の活性化について
市長答弁：今年、赤平駅前広場の整備が完了し、中心市街地における安全で円滑な交通結節点として、市内外の多くの人を招き、商店街の活性化を図るための役割を期待。今後、みんなで知恵を絞り、協議をしていく。

質問②市町村合併について
市長答弁：合併新法の期限が平成22年3月まで。今後の普通交付税をはじめとする財政支援にも影響するが、当市においては、平成16年9月に中

現在の赤平の財政状況は？



◆日本共産党

(宗戸 忠)

質問①国・道による地方交付税削減・産炭基金一括返還・行政対応について
市長答弁：地方交付税の削減が自治体にも与えた影響は大きく、今後、市長会等を通じて強く要望していく。

◆公明党

(五十嵐美知)

質問①市有財産貸し出しについて
市長答弁：遊休施設の売却、貸付方法等の検討をする。

◆歳入確保対策

質問①市有財産貸し出しについて
市長答弁：遊休施設の売却、貸付方法等の検討をする。

◆歳入確保対策

質問①市有財産貸し出しについて
市長答弁：遊休施設の売却、貸付方法等の検討をする。

◆歳入確保対策

質問①市有財産貸し出しについて
市長答弁：遊休施設の売却、貸付方法等の検討をする。

◆歳入確保対策

質問①市有財産貸し出しについて
市長答弁：遊休施設の売却、貸付方法等の検討をする。

<2月>

議会の動き

- 12日 ■行財政改革調査特別委員会
・財政状況について
■社会経済常任委員会
・産廃処分費用処分単位について
・共同浴場利用基準額について
・エコバレー処分手数料改正の経過について
・赤平市福祉灯油購入費助成事業進捗状況
・保育料徴収基準額表の改訂について
・赤平市水道条例の一部改正について
15日 ■全員協議会
・議員報酬について
■総務文教常任委員会
・市営テニスコートについて

- 22日 ■全員協議会
・議員報酬について
■総務文教常任委員会
・市営テニスコートについて
■社会経済常任委員会
・赤平市水道条例の一部改正について
25日 ■全員協議会
・議員報酬について
■行財政改革調査特別委員会
・財政状況について

<3月>

- 6日 ●平成20年赤平市議会第1回定例会 (~21日まで)
・市政報告、市政執行方針演説
・新年度予算説明 など

- 7日 ●行財政改革特別委員会
・財政健全化計画について
●社会経済常任委員会
●総務文教常任委員会
12日 ●一般質問(知新会・新政クラブ・民主クラブ)
13日 ●一般質問(日本共産党・公明党)
14日 ★議会費、職員給与費など
17日 ★教育費、後期高齢者医療・介護サービス費など
18日 ★病院会計、土木費、下水道事業費など
19日 ★市長総括質問・討論・採決 (14日~19日までは予算特別委員会の開催)
21日 ●委員会報告、その他の議題

花卉園芸公社
赤平のランは
どうなってるの?



平成6年から始めた花卉園芸公社は、市の第3セクターとして経営をしてきました。しかし、技術力向上や販路の拡大に努力してきましたが、単年度黒字にはなれなかった。また、最近では、原油の高騰が原因でハウス4棟を閉めるなど、生産力の低下となっています。その様な背景の中、14年間の市からの借入金は、

約 **5億2千5百万円**と

赤字は膨れあがっている状態です。

経営状態は
どうなってるの?

赤字だらけ
耳にするけど...



こんなに赤字が続いているのに、
どうして止めないの?

昨年の定例会でも、
(12月) 花卉園芸公社に対する
補正予算を承認してあげたよ!

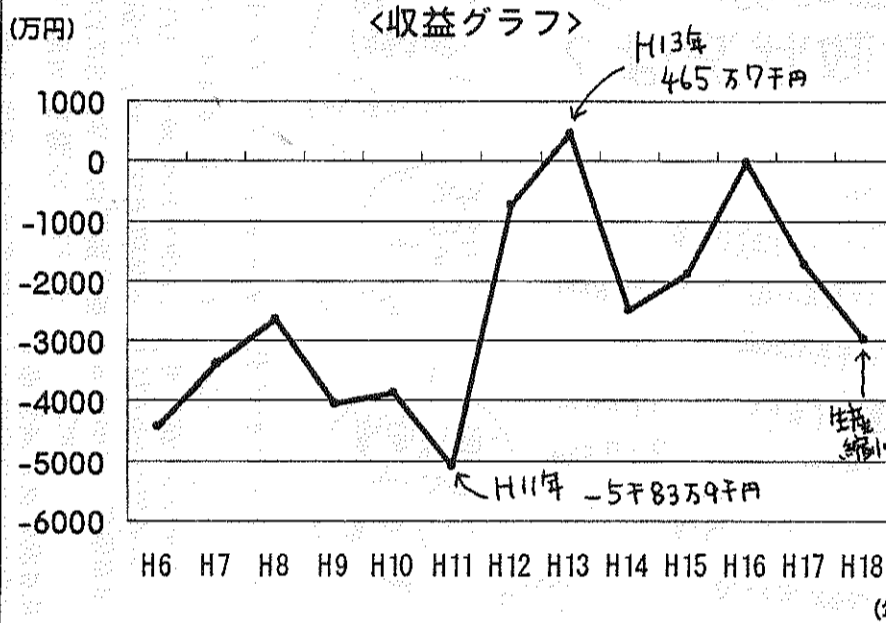
どうして? どうして??

平成19年度中に、公社を閉鎖しようと、市債付金の不納欠損が6億円ほど生じ、平成20年度からの地方財政健全化法適用の前に「赤字再建団体」になってしまふ。恐れがあり、なんとかそれだけは避けたいという事態にたまたま、議会においても苦しい決断でした。幾度の会議を重ね、補正予算の承認をしました。

でもまだ続けるの??

いえ...平成20年度中に、民間への売却を求めていくと同時に、今後の公社についての整理していくことになっています。

＜収益グラフ＞



なぜ? 赤平のランの栽培がはじまったの?

石炭産業で栄えた赤平でしたが... 昭和40年以降エネルギーの転換により、石炭需要は減少しました。同時に人も減り、マツコシヨもなくなりました。そんな中、赤平の将来のための新たな事業として、国道からの支援もいただき、花のまちづくり、ランのまちあかびらの歩みがスタートしました。

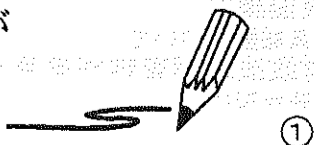


議会 Note Book

「かわら版」発行に寄せて

赤平市議会 議長 鎌田 恒彰

諸般の事情により発行を休止していました「議会だより」に変えて、従来の紙面内容を一新し「あかびら市議会 かわら版」を発行することとなりました。編集委員会の委員の手づくりにより、経費も負担し、市民の皆様に議会の情報を発信し、情報を共有する一助になる事を願って止みません。市の財政、病院問題、花卉公社、合併問題等、山積する課題解決の為、「かわら版」の発行が、市民の皆様のアイデアや、工夫をお寄せいただきながら、市民と議会がより一層身近な関係を保ち、媒体の機会となるよう期待し、初版にあたっての挨拶と致します。



編・集・後・記

この度の「かわら版」発行にあたって、市民のみなさんに、市議会の状況の一端をお知らせすることとなりました。主に、定例会ごとに発行し、ご理解と市民主人公の議会構築を固りたいと思っています。議員自らの手作りで経費負担と情報公開に努めていきたいと思っています。みなさんからのご意見もいただきながら、紙面の構成も考え、身近な議会の情報誌として読まれることをモットーに、発行したいと思っています。ご理解の程、よろしくお願ひいたします。

『かわら版』編集長 尖戸 忠

